

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地歴	世界史A	前期2単位	6	6	3

◇科目の目標

世界の歴史を学ぶことで、様々な地域が多様な文化を育てながら互いに結びつき今日の世界を形づくって来たことを理解し、現代世界への関心を持つ。

◇科目の概要

世界の諸地域世界の交流を学んだ上で、近現代史を中心に学ぶ。

◇学習の進め方

教科書をよく読み、面接指導を受けながら、レポートを完成させていく。

◇履修にあたっての留意点

まず教科書を熟読して、大きく流れをつかむことが大事です。面接にできるだけ多く出ることが、レポートを順調に進めていくコツです。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5/2, 3	1	ユーラシアの諸地域世界・ユーラシアの交流圏	5～50
2	5/23, 24	2	アジア諸国の繁栄とヨーロッパ・大西洋世界の変容(1)	51～83
3	5/30, 31	3	大西洋世界の変容とその波及(2)・産業社会の拡大と成熟	84～118
4	6/27, 28	4	アジア諸国の変貌と日本・帝国と民族の時代	119～154
5	7/11, 12	5	二つの世界大戦の時代	155～182
6	7/18, 19	6	冷戦と民族独立の時代・グローバル化のなかの危機他	183～221

◇テスト範囲

《中間》	レポート 1, 2, 3	《期末》	レポート 4, 5, 6
------	-----------------	------	-----------------

◇成績評価の方法

レポート、テスト、面接出席時間数から総合的に評価する。

◇教科書 東京書籍『世界史A』（2・東書・世A301）

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地歴	世界史A	後期2単位	6	6	3

◇科目の目標

世界の歴史を学ぶことで、様々な地域が多様な文化を育てながら互いに結びつき今日の世界を形づくって来たことを理解し、現代世界への関心を持つ。

◇科目の概要

世界の文化交流を学んだ上で、近現代史を中心に学ぶ。

◇学習の進め方

教科書をよく読み、面接指導を受けながら、レポートを完成させていく。

◇履修にあたっての留意点

教科書を熟読して、大きく流れをつかむことが大事です。面接にできるだけ多く出ることが、レポートを順調に進めていくコツです。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	10/10, 11	1	ユーラシアの諸地域世界・ユーラシアの交流圏	5～50
2	10/17, 18	2	アジア諸国の繁栄とヨーロッパ・大西洋世界の変容(1)	51～83
3	10/24, 25	3	大西洋世界の変容とその波及(2)・産業社会の拡大と成熟	84～118
4	12/5, 6	4	アジア諸国の変貌と日本・帝国と民族の時代	119～154
5	12/12, 13	5	二つの世界大戦の時代	155～182
6	1/16, 17	6	冷戦と民族独立の時代・グローバル化のなかの危機他	183～221

◇テスト範囲

《中間》	レポート 1, 2, 3	《期末》	レポート 4, 5, 6
------	-----------------	------	-----------------

◇成績評価の方法

レポート、テスト、面接出席時間数から総合的に評価する。

◇教科書 東京書籍『世界史A』（2・東書・世A301）

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地歴	世界史B	通年4単位	12	12	6

◇科目の目標

「世界の歴史」を古代から現代まで全体的に学ぶ。

◇科目の概要

文明と地域世界の形成、諸地域世界の結合と変容、地球世界の形成などを学ぶ。

◇学習の進め方

面接指導を受けながら、レポートを完成させていく。

◇履修にあたっての留意点

教科書を熟読して大きく流れをつかむこと。

◇スクーリング計画

	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
世界史B	5/2, 3	1	西アジア、地中海世界の形成	14～35
	5/23, 24	2	南アジア世界の形成	36～47
	5/30, 31	3	東アジア世界の形成	48～66
	6/27, 28	4	イスラム世界の形成	68～81
	7/11, 12	5	ヨーロッパ世界の形成と変動	82～97
	7/18, 19	6	内陸アジア世界とアジア諸地域	98～127
	10/10, 11	7	ヨーロッパの拡大	128～149
	10/17, 18	8	ヨーロッパの拡大と大西洋世界	150～173
	10/24, 25	9	ヨーロッパ、アメリカの発展	174～189
	12/5, 6	10	世界の分割	189～217
	12/12, 13	11	第2次世界大戦	218～229
	1/16, 17	12	戦後世界の形成	230～257

◇テスト範囲

《中間》 レポート1～6	《期末》 レポート7～12
-----------------	------------------

◇成績評価の方法

レポート、テスト、面接出席時間数から総合的に評価する。

◇教科書 東京書籍『新選世界史B』（2・東書・世B311）

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地歴	地理 A	後期 2 単位	6	6	3

◇科目の目標

地理的な考え方を有効な手段として、世界に共通する現代の課題の解決を追求していく。

◇科目の概要

世界各国の地誌を学ぶことによって国際的な理解を深め、かつ視野を広げる。

◇学習の進め方

世界の国々の文化・生活習慣について興味・関心が持てるべく授業を進めていく。

◇履修にあたっての留意点

地理的知識だけを給与するだけでなく、地理的思考力を養うことにも重点を置く。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10 月 3, 4 日	NO. 1	地球儀と地図、国家間の結びつき、地図でみる世界のつながり	P 6～P 29
2	10 月 10, 11 日	NO. 2	地形、気候、経済・文化	P 32～P 63
3	11 月 7, 8 日	NO. 3	中国、朝鮮半島、東南アジア、南アジア	P 67～P 91
4	12 月 5, 6 日	NO. 4	中央アジア、西アジア、アフリカ、ヨーロッパ、ロシア	P 92～P115
5	12 月 19, 20 日	NO. 5	アングロアメリカ・ラテンアメリカ・オセアニア	P117～P135
6	1 月 16, 17 日	NO. 6	地球的課題	P138～P161

◇テスト範囲

前期 中間テスト範囲	レポート NO. 1, NO. 2, NO. 3	前期 期末テスト範囲	レポート NO. 4, NO. 5, NO. 6
---------------	--------------------------	---------------	--------------------------

◇成績評価の方法

授業への出欠席・授業態度・テストの点数・レポートの完成度等を加味しながら、総合的に評価する。

教科書 『基本地理 A』 二宮書店  
『新詳高等地図』 帝国書院

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地歴	地理B	通年4単位	12	12	6

◇科目の目標

世界の自然・社会・文化の多様性を学ぶことで、現代世界の様々なニュースを正確に把握し、国際的な理解を深める。

◇科目の概要

地図と地図情報の活用、自然環境や社会環境、現代世界の諸地域の順に学びながら、現代の世界に関する知識を広げていく。

◇学習の進め方

教科書と地図帳をよく読み、レポートを進める。面接では時事的な問題にも触れる。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、レポートの1つ1つの問のみにとらわれず、内容の全体的な理解を目指しましょう。

◇スクーリング計画

	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
地理 B	5/2, 3	N01	地理情報と地図・地図と地域調査	P 6～P30
	5/9, 10	N02	地形・気候	P32～P63
	5/23, 24	N03	自然と生活・自然環境に関する諸問題	P64～P88
	6/27, 28	N04	農林水産業・資源・エネルギー	P88～P113
	7/4, 5	N05	工業・流通と消費	P114～P139
	7/25, 26	N06	人口・都市・村落	P140～P163
	10/3, 4	N07	衣食住・言語と宗教・民族と国家	P164～P180
	10/10, 11	N08	現代世界の地域区分・中国・韓国	P181～P205
	11/7, 8	N09	東南アジア・インド・西アジア・中央アジア	P206～P235
	12/5, 6	N010	アフリカ・EU/ドイツとポーランド	P236～P263
	12/19, 20	N011	ロシア・アメリカ	P264～P285
	1/ 16, 17	N012	ブラジル・オーストラリアとカナダ・現代世界と日本	P286～P316

◇テスト範囲

前期期末 テスト範囲	レポート N01. N02. N03. N04. N05. N06
---------------	--------------------------------------

後期期末 テスト範囲	レポート N07. N08. N09. N010. N011. N012
---------------	---

◇成績評価の方法

授業への出欠席、授業態度、テストの点数、レポートの完成度を考慮に入れながら、総合的に評価する。

教科書 新編 詳解地理B 二宮書店

新詳高等地図 帝国

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地 歴	日 本 史 A	前期2単位	6	6	3

◇ 科目の目標

民主主義国家日本が近代以降どのように形成されてきたかを学ぶ

◇ 科目の概要

幕末から現代まで、主に日本に関する出来事・文化・社会状況などを時系列で学んでゆく

◇ 学習の進め方

報告課題を柱に、適宜必要な資料を提供し、それぞれの事象の歴史的な意義を検証しながら進める

◇ 履修にあたっての留意点

知識の寄せ集めにならないよう、有機的・立体的な歴史イメージを形成するよう留意する

◇ スクーリング計画

回数	開講月日	レポNo.	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/25・26	1	国際情勢の変化と明治維新	30～41
2	5/23・24	2	明治維新政府の諸改革・立憲国家の成立	42～59
3	5/30・31	3	日清戦争と近代社会の確立・日露戦争と帝国日本の形成	60～95
4	7/4・5	4	第1次世界大戦と帝国日本・政党政治の時代・軍国日本への道	96～125
5	7/18・19	5	太平洋戦争・現代日本の開幕と日本の戦後改革	126～159
6	7/25・26	6	高度経済成長の時代・国際秩序のゆらぎと経済大国日本・冷戦の終焉と日本	160～205

◇ テスト範囲

前 期 中 間	レポートNO. 1 ～ 3	前 期 期 末	レポートNO. 4 ～ 6
---------	---------------	---------	---------------

◇ 成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。

◇ 使用教科書 『日本史A 現代からの歴史』 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地 歴	日 本 史 B	通年4単位	1 2	1 2	6

◇ 科目の目標

我が国の歴史の展開を世界史的視野で考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。

◇ 科目の概要

古代国家の形成から現代までを、国際環境と関連付けて学習する。

◇ 学習の進め方

必ず教科書を一読してから、報告課題（レポート）を仕上げる。面接（スクーリング）までに予習しておく

◇ 履修にあたっての留意点

単なる知識の寄せ集めにならないよう、有機的・立体的な歴史イメージを形成するよう留意する

◇ スクーリング計画

回数	開講月日	レポNo.	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/25・26	1	原始社会の生活と文化/農耕社会の形成と大陸文化の摂取	6～ 21
2	5/23・24	2	律令国家の形成と古代文化の展開	22～ 43
3	5/30・31	3	摂関政治と文化の和様化	44～ 51
4	7/ 4・ 5	4	中世社会の成立	56～ 81
5	7/18・19	5	武家社会の形成と東アジア	82～ 99
6	7/25・26	6	ヨーロッパ文化との接触と国内統一/幕藩体制の成立	104～127
7	10/ 3・ 4	7	近世社会の発達と町人文化	128～139
8	10/10・11	8	幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	140～155
9	10/24・25	9	開国から明治維新へ	160～177
10	12/12・13	10	立憲政治の形成と国民文化/日本の近代化と東アジア	180～203
11	1/ 9・10	11	大正デモクラシーと第一次世界大戦/激動する世界と日本	204～233
12	1/16・17	12	占領と国内改革 高度経済成長 石油ショック	238～266

◇ テスト範囲

前期 期末	レポートNO. 1 ～ 6	後期 期末	レポートNO. 7 ～ 12
-------	---------------	-------	----------------

◇ 成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。

◇ 使用教科書 『新選日本史B』 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
公民	現代社会	2単位	6	6	3

◇科目の目標

現代における政治・経済・思想面で、その成立の歴史や展開など全体の仕組みを知る。

◇科目の概要

国内外における政治・経済・思想の歴史とその構造、時事問題について展開する。

◇学習の進め方

レポートの解説だけに留まらず、現代社会で起きている諸問題を積極的に学んでいく。

◇履修にあたっての留意点

教科書の羅列で終わらないよう、できるだけ具体例をイメージできるように留意する。

◇スクーリング計画【前期】

教科書：『現代社会』（東京書籍）

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5/2, 3	1	地球環境問題 資源・エネルギー問題 科学技術の発達と生命 情報化の進展と生活 青年期と自己形成の課題	5～57
2	5/9, 10	2	日本国憲法と民主政治	58～99
3	5/30, 31	3	現代社会と法	100～109
4	6/27, 28	4	現代の経済と国民福祉	10～153
5	7/11, 12	5		
6	7/25, 26	6	国際社会と人類の課題	154～192

◇テスト範囲

前期 中間テスト	レポート 第1・2・3回	前期 期末テスト	レポート 第4・5・6回
-------------	-----------------	-------------	-----------------

◇成績評価の方法

テスト点、レポート点、授業参加意欲・態度、個人レポートなど総合的に加味して評価する。



教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
公民	現代社会	2単位	6	6	3

◇科目の目標

現代における政治・経済・思想面で、その成立の歴史や展開など全体の仕組みを知る。

◇科目の概要

国内外における政治・経済・思想の歴史とその構造、時事問題について展開する。

◇学習の進め方

レポートの解説だけに留まらず、現代社会で起きている諸問題を積極的に学んでいく。

◇履修にあたっての留意点

教科書の羅列で終わらないよう、できるだけ具体例をイメージできるように留意する。

◇スクーリング計画【前期】

教科書：『現代社会』（東京書籍）

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/10, 11	1	地球環境問題 資源・エネルギー問題 科学技術の発達と生命 情報化の進展と生活 青年期と自己形成の課題	5～57
2	10/24, 25	2	日本国憲法と民主政治	58～99
3	11/7, 8	3	現代社会と法	100～109
4	12/5, 6	4	現代の経済と国民福祉	10～153
5	12/19, 20	5		
6	1/9, 10	6	国際社会と人類の課題	154～192

◇テスト範囲

前期 中間テスト	レポート 第1・2・3回	前期 期末テスト	レポート 第4・5・6回
-------------	-----------------	-------------	-----------------

◇成績評価の方法

テスト点、レポート点、授業参加意欲・態度、個人レポートなど総合的に加味して評価する。